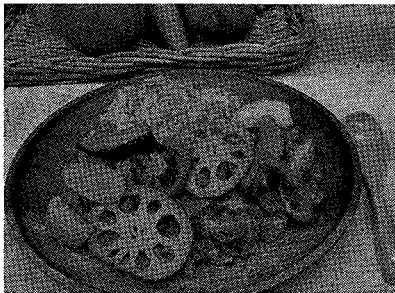
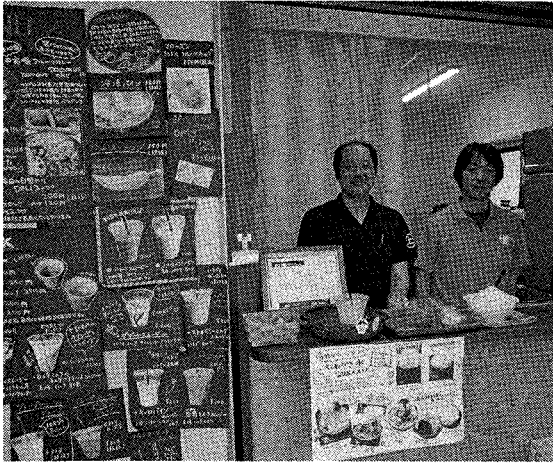


好評！「市場カフェ」

旬の食材提供 地域に存在発信

糸魚川青果

新潟県糸魚川市の民営青果市場である糸魚川青果卸売市場（木嶋隆社長）では、今年2月、卸売場に隣接した駐車場に「市場カフェ」をオープンした。看板メニューは、野菜ぐずで作るだし「ベジタブルスープ」をベースに旬の野菜や果物をトッピングした「ベジタブルカレー」と「フルーツカレー」や、オリジナルのジュース、スムージー、かき氷など。旬の新鮮な野菜・果物を使った食を提供していくとともに、地域住民や企業関係者に「地元の卸売市場の存在」を発信していく。



（写真上）木嶋社長（左）と上原正樹・果実部長。カフェで提供するメニューは全て原材料を解説している（下）看板メニューの「ベジタブルカレー」

糸魚川は北陸新幹線の駅が設置されたとはいえ、地域人口は減少し、地場産地も少ないなど、同市場の経営環境は引続き厳しい。その中で市場カフェは、「当社は中小市場ではあるが、少しでも前向きなことに取組むとともに、地域に市場の存在を発信していくこと」（木嶋社長）が狙い。

営業時間は市場営業日の午前11時～午後3時。業務は同社スタッフが兼務し、メニューもスタッフ自身が考案。ベーク、日替り弁当、総菜などもある。同市場は住宅街の中にあるが、周辺の主婦や近隣の企業のOLなどが利用している。また、地域のイベントには市場カフェとして積極的に出店し、メニューを提供するとともに、「地元の卸売市場発」であることをPR。木嶋社長は「消費者には卸売市場というものが大きなブランドと感じている。」

なお、同社には「不動産部門」もあり、テナントビルや市場に隣接したアパート5棟（計22室、

2K及び2DK中心）を保有。これらの収入を市場経営の安定につなげている。



手堅い不動産収入も市場の安定経営につなげている